

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月25日(火)

会場:みわ文化センター

参加者数:25人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三和地区の人口は、今年9月末で2,514人で、高齢化率は51.6%となっており、2031年には2,084人、高齢化55.4%になると推計されている。三和地区の生活基盤がどうなるのか想像することが難しい。</p> <p>本市は、近隣の庄原市、安芸高田市、島根県の飯南町などの中枢機能をもたせる中心部と、周辺部とのバランスが重要であるが、どのように考えておられるか。</p>	<p>人口減少は市全体の大きな問題であり、適正な人口規模の設定と、世代別人口を均一化させることが重要となる。今、70代や80代が大きな比率を占めており、それらの世代別人口をなるべく均一化させることが、今後の人口バランスの中では重要であると考ええる。人口構造のバランスを取っていくことが一つの大きな目標になる。</p> <p>本市は、人口は減少しているが、屋間の人口に着目してみると、労働や買い物などで三次市外から多く来られている。商工会議所等と連携しながら、都市機能の活性化を図っていくことは必要であると考えている。</p>	
<p>市営住宅の入居者の待ち受け体制の準備について伺いたい。市営住宅が3箇所あるが、1年半前に下板木地区に移住希望があり、入居できるか市担当課に相談したところ、住宅は空いているが掃除が必要なため、すぐの入居が難しいと言われ、残念な思いをした。ハウスクリーニング等をして、早めに入居できるようにしてほしい。</p>	<p>市営住宅は、現在の稼働率は低く、老朽化も進んでおり、見直すべき物件もある。利用状況を踏まえて、市営住宅のあり方を検討していく。</p>	
<p>竹(孟宗竹)が多いので、チップやパウダーにし、飼料などに再利用してはどうか。行政が主導して、三和地区で先行して取り組んでもらえないか。就労の機会にもなるので、考えてほしい。</p>	<p>それぞれの地域の個性を生かした地域づくりは、今後さらに重要になる。三和地区での取組として、竹を生かすことはいいアイデアであり、今まで邪魔になっていたものを資源化することは、これからの地域づくりのテーマであると考え。地域の皆さんと行政とが一緒になって、地域資源を生かすことを共有していくことが大事である。</p>	
<p>農業や林業をやりたい人、都会を離れた人など、多くの方々がおられる。世羅町のホームページは、移住に関する情報がすぐ見つかるが、三次市のホームページでは移住に関する情報が見つけにくい。また、他市と移住に関する助成内容に差異がないので、三次ならこれという特徴を考えたらどうか。例えば、鮎釣りの鑑札を5年間無料にする、鵜飼いの遊覧船の乗り放題、ジビエを定期的に届けるなどはどうか。</p>	<p>コロナにより、若い人の移住先として地方に目が向けられている。令和2年度と令和3年度を比べると、市への相談件数も増加し、三和地区でも、県外からの移住者がいる。移住に関する情報を的確に届けることは重要であり、わかりやすいものにしなければならぬ。本市が取り組んでいる施策などがすぐわかり、皆さんに情報が届くような市ホームページのリニューアルを心がけていきたい。本市の地域資源を活用する中で、若い人の参考になるような事例情報を出しながら、定住対策に結び付けていきたい。地域において色々な情報等があれば、自治連合会や市役所に情報を届けていただきたい。</p>	
<p>地域づくりの基本は人づくりである。島根県海士町や大分県大山町における「人づくり・まちづくり」の取組は、行政職員の存在が要である。行政も、民間システムによる人事評価制度の導入をしてほしい。</p>	<p>郷土愛を有した子どもたちを育むことが重要である。魅力ある地域づくりに欠かせない人材育成にもつながる。市役所内における人材育成は重要であり、人事評価などに取り組んでいる。公務員である以上、民間企業のように、人事評価や業務成績を給与体系に反映させることは難しいが、働いている人が適正に評価されていると感じる人事評価は必要である。職員の働く意欲の向上と働き方改革につなげていく。</p>	
<p>・日本の労働力不足に対応するため、諸外国からの農業や福祉などの分野における人材を受け入れてはどうか。 ・山羊を100頭飼育したいと計画している。三良坂フロマージュは国際的にも有名となった。観光農業による集客と特産品づくりとして、山羊の乳でつくるチーズやヨーグルトを販売したらいいのではないか。また、沖縄で山羊の刺身を食べたことがある。山羊を飼育したらどうか。</p>	<p>山羊の飼育や国際交流については、提言として受け止めさせていただく。</p>	

令和4年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月25日(火)

会場:みわ文化センター

参加者数:25人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>雑誌に、高校の評価に関する記事があった。本市の高校は有名大学への進学率が少ない。優秀な人材を育成するためには、学校数を減らし、教員の質を向上させ、私学的な経営をする必要がある。</p>	<p>学校の統廃合に関して、今年3月に小・中学校の規模及び配置の適正化について基本方針を策定した。小学校・中学校ともに、極端に少ない人数になった場合、保護者や地域と一緒に考えていく。生徒数も問題であるが、どのような教育をするかも重要である。将来、持続可能な地域にするためには、地域で幸せを感じながら、社会の主人公として生きていく子どもを育てなければならない。15歳までに地域とつながる経験をされた方が、大人になって地域貢献されている。学校だけでなく、地域や保護者とつながって教育活動を行うことが、本当の力をつけることになると思っている。</p>	
<p>・大土山を元気にする会として、5年間の県の森づくり事業を進めており、令和2年に三次の地域づくりワークショップに参加し、大土山について提言をした。大土山は、三和地区の宝であり、大切な山であるが、頂上付近は市所有である。令和2年度に境界の問題を解決するとともに、会員20名で整備した。県の緑林事業を使い、登山道などを整備している。大土山を元気にする会は、団体として小さく、主体となって事業を行うことができないことから、自治連合会にお願いをしている段階である。県への事業申請の期限は11月頃と聞いており、保全事業を行っていくように申請してほしい。</p> <p>・これまで、山に登り、現地確認を行い、会議を重ねてきたが、まだ、合意形成に至っていない。住民が一緒になって行うべきであり、自治連合会として団結しなければならない。お気持ちはわかるが、組織決定していないので、理解してほしい。</p>	<p>大土山は地域の宝である。今回、大土山を元気にする会から自治連合会に要望書が提出されているが、今の段階では結論は出していない。今後は、まちづくりビジョンに基づきながら進めていく必要がある。三和地区のまちづくりとして何をするのか、地域での合意形成をしながら、協議していく必要がある。地域の盛り上がりが必要である。</p>	
<p>・今後、デジタル化を推進し、マイナンバーカードを展開させることが重要である。支所や税務署に行かなくても、マイナンバーカードで自宅から申告ができるなどのメリットがある。コロナ給付金等の際に、全員がマイナンバーカードを持ち、口座登録ができていれば、経費削減できたのではないか。経費削減できた場合の数値を示していけばいいのではないか。</p> <p>・音声告知放送は、その時しか聞くことができない。原稿を市ホームページなどにアップすれば、情報をいつでも確認することができる。</p>	<p>・マイナンバーカードが早くから普及していれば、経費削減ができていたと思う。国が、マイナンバーカードと保険証を一体化させる方向を示し、取得率が向上している。マイナンバーカードが普及しないとデジタル化は進まない側面があることから、カードを所有するメリットを示し、国や県と協議しながら進めていきたい。デジタル化の有用性は地域でこそ発揮される。また、遠隔診療などにより、自宅診療を受けることができることも立証された。身近に、そして簡単に利用できるような状況になるように、引き続き、みんなに優しいデジタルを推進していきたい。</p> <p>・色々な情報提供の手段があり、行政情報を皆さんの手元にタイムリーに届けることができるように、工夫をしていきたい。現在、市公式LINEの加入者数は1万1,500人程度であり、これまでの情報発信と比べ、圧倒的に情報発信の量と質が向上してきている。</p>	